



生徒会活動などにも使う定時制の部室。奥左に見える遊具「真定ネスト」は、工事の足場用パイプで先達が作った名品だ

呉工定時制 実践きらり

広島県内の高校で定時制課程の再編、廃止が進む中、2022年度から呉地区で唯一、定時制のある高校となる呉工業（呉工）が、同課程の存在意義に光を当てる実践に動いている。働きながら学べる場、社会人の学び直しの場、資格取得を促し自活の力を高める場…。夜の校舎に明かりをともし続け、新たなニーズへの対応も模索する。（道田雅羅）

広島県内の高校 再編・廃止進む中…



社会人入学など年齢も多様な生徒を送り出した卒業式（1日）

19年度に科新設 多様なニーズに対応

今月1日にあった呉工定時制の卒業式。中本浩 校長が「定時制で学ぶことはたやすいことではなかったと思う」とねぎらった。機械科6人、電気科6人の計12人の中には、社会人入学した40代2人、70代2人も。年の離れた同級生が、午後5時50分に1時間が始まる教室を共にしてきた。

校舎は、最寄りバス停から急坂を500mほど上った先にある。扉間はガソリンスタンドで働き、4年間の課程を終えた機械科の奥島博さん（19）は「学業意志が坂道にも試され、鍛えられた」と実感を込める。

卒業生を育めた17、18年の生徒数は計55人。少人数ながら近年、コンテストなどの活躍が自立つ。本年度卒業生の古谷隆博さん（19）は昨年12月、全国工業高等学校長協会が主催するマイコンカーラリーの中国地区大会で優勝。19年度の4年生が製作したプラン

コ状の遊具「真定ネスト」は、県高校生技術オリエンタール作品展示部門1位に輝き、今も校内の図書室に展示されている。本年度2、3年生の計4人が第2種電気工事士に合格するなど、資格取得でも実績を挙げている。

県内では、広島市東部の県立、市立6校の定時・通信制が広島みらい館生（18年度閉校）へ統合されるなど、再編が急だ。呉地区では、広の定時制が1日、三津田の定時制が1日、閉校閉校を聞き、それぞれ14年、87年の歴史に終止符を打った。

ともに普通科だった両校の定時制の受け皿となることも含み、呉工定時制には19年度、機械、電気科に加え、キャリアデザイン科が新設された。実業高校の特色を保ちつつ多様な生徒を受け入れる。

同科2年の古賀ユージさん（17）はブラジル生まれで、2歳で家族と日本へ。働きながら学べるメリットから定時制を選び、「少人数の教室が性に合っている」と愛着を覚える。日常的にポルトガル語と日本語を使い分ける中で磨かれた語学のセンスを生かし、昨年、英語検定2級を取った。

定時制担当の清水剛教頭は「経済的理由だけでなく、性格的に全日制になじみにくい生徒もいる。その子たちがドロップアウトせず、生きる力を養う場でありたい」と強調する。「資格取得に挑む実業の気風は、キャリアデザイン科の生徒にも刺激となっている」と手応えを感じる。

呉工業定時制の同窓会会長で会社社長の高橋直樹さん（65）は「呉市には『定時制は、生徒同士が励まし合って学ぶ感じが強く伝わってくる。文化祭などのイベントを通じて、全日制との交流も進んでいる』と期待を込める。